



息子の思い 絵本に託す

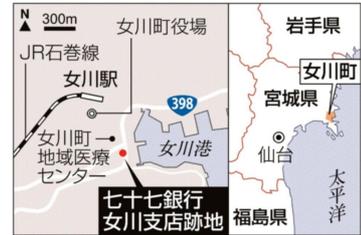
迫る津波 最期まで諦めず

東日本大震災の津波で長男の健太さん(当時25)を亡くした田村弘美さん(63)が14日、「絵本ラウンジLOOP なかの」(東京都中野区)で開かれたコンサートに出演し、自作絵本に込めた思いを語った。弘美さんは夫の孝行さん(65)とともに、全国で企業防災の重要性や命の大切さを訴え続けている。

(永礼もも香、大渡美咲)

—3面に関連記事

《真っ黒な海が、つい 合わせ、田村さん夫妻がにげんたたちのいる屋上にまで襲いかかってきた。(中略)でも…もう逃げる場所がない。》
コンサートでは演奏に



川支店(宮城県女川町)に勤めていた健太さんたちは、支店長の指示で2階建ての屋上に避難し、津波に流された。4人が死亡し、今も8人が見つかっていない。他の金融機関の従業員や近隣住民らが避難した高台は、支店から走ってわずか1分のところにあった。

震災後、弘美さんはあんなに証言を耳にした。「支店の屋上から海に飛び込んだ男性がいた」。男性の特徴を聞き、健太さんだと思った。最期まで生きることが諦めていなかったのだと知った。

「健太、約束します 父母」。葬儀の日、あいさつ文を入れた封筒に記した。息子が命を懸けて教えてくれたことを未来に残したい。そうした思いを込め、令和6年3月に絵本を完成させた。田村さん夫妻は平成24年9月、「原因究明と再発防止をしてほしい」との思いから、銀行を提訴。26年2月の1審仙台地裁判決は「屋上を超える巨大津波を予見することは困難」とし、遺族側の請求を棄却。最高裁で敗訴が確定した。

命守る大切さ子供たちへ

14日に開かれたコンサートには、親子連れを中心に約40人が来場した。《仲間が飲み込まれていったそのとき、けんたはくつとスーツの上着を脱ぎ捨てた。『あきらめるもんか!』》

絵本制作に協力したシンガー・ソングライター、木村真紀さん(64)による歌唱と演奏に乗せ、絵を担当した渡辺麻美さん(39)が朗読を披露すると、会場には涙をこらえる人の姿もあった。

「息子の姿はなくなってしまうけれど、この絵本の中にずっと生き続ける」。弘美さんは来場者にこう語りかけた。「これから生きる子供たちが絵本の中で息子に出会い、命を守る大切さを感じてくれたら」

コンサートで絵本に込めた思いを語る田村弘美さん(左)とシンガー・ソングライターの木村真紀さん(右)。14日午後、東京都中野区(永礼もも香撮影)

双子の5歳の娘を連れて訪れた杉並区の主婦、藤田侑香さん(42)は「忘れてはいけない日があるんだと感じた。わが子に少しでも誓っていたら

会場では31日まで、同作の原画展も開かれている。